

人とかかわる力を育てるための環境の工夫

—異文化とのふれあいを通して—



浦添市立沢岬幼稚園

新垣 順子

目 次

	ページ
I テーマ設定の理由	1
II 研究の目標	1
III 研究の仮説	2
1 基本仮説	2
2 作業仮説	2
IV 研究構想図	2
V 研究内容	3
1 人とかかわる力の育ち	3
2 異文化とふれあうことの意義	4
3 異文化に親しむための環境の工夫	5~6
(1) 人的環境の工夫	5
(2) 教材や場の工夫	5~6
4 「異文化とふれあう」年間指導計画	7
5 アンケート調査	8~9
VI 保育実践	10~
1 「異文化とふれあう」活動の展開	10
2 実践例	11~
(1) ハロウィンまつりをしよう	11~12
(2) 英語劇をしよう	13~15
3 検証保育	15~
(1) 検証保育指導案	15~17
(2) 検証保育の結果と考察	18
VII 研究のまとめ	19
1 研究の成果	19
(1) 作業仮説 (1) について	19
(2) 作業仮説 (2) について	19
2 研究の課題	19
おわりに・資料	19
参考・引用文献	20

人とかかわる力を育てるための環境の工夫

—異文化とのふれあいを通して—

浦添市立沢岬幼稚園 新垣 順子

【要約】

この研究は、本園の地域環境を生かした取り組みとして、幼児が外国の人と交流したり、外国の文化を体験することによって培われる内面の育ちを、「人とのかかわり」の側面から捉えた。このような異文化とふれあう活動を、年間指導計画に位置付け、地域人材を発掘・活用し、幼児の実態に合った環境を工夫しながら実践することができた。その結果、子どもたちが喜んでかかわり、自分らしさを出しながら相手を受け入れる中で、社会的態度が養われ、人とかかわる力が育ってきた。

キーワード⇒ 人とかかわる力 異文化 環境の工夫 年間指導計画

I テーマ設定の理由

幼児期は、将来にわたり人とかかわりながら生活を営んでいくための基礎となる力を培う時期であり、この時期に身近な人々と一緒に行動することの喜びや充実感を味わったりすることは、人と積極的にかかわって生活を営もうとする意欲を育てるために大切なことである。しかし、最近の幼児は、人とのかかわりや直接的、具体的な体験が不足し、幼児の発達にとって重要な自我を形成する機会が減少してきている。本園の子供たちも、物事に進んで取り組むことや、自分の思いや考えを表現したり、自分の力であきらめずにやり遂げようとするなどへの意欲が弱くなってきているように思われる。そのような実態から、幼稚園で積極的に幼児の心を揺り動かすような豊かな生活体験の機会を設けることが必要と感じ、友達とのかかわりや、祖父母など高齢者とのかかわり、小学生や未就園児とのかかわりなどについて、研究、実践をしてきた。ところで、本園では、外国人の保護者や外国生活経験のある保護者による外国文化の紹介や、外国からの体験入園の受け入れ及び、沖縄国際センターの研修員との交流など、これ

まで様々な異文化とのふれあいを経験してきた。子供たちも初めは肌の色や言葉の違いに戸惑っていたが、時間の経過とともに次第に打ち解け、手を引っ張って遊びに誘ったり、外国の言葉に興味をもち、簡単な挨拶や言葉を喜んで使う姿もみられた。

このような体験が、幼児にとって自分以外の広い社会へ目を向ける良い機会になるよう、異文化とのふれあいを「人間関係」の側面からとらえ、年間指導計画の中に位置付ける必要があると考えた。その中で、外国人や外国文化に親しむためには、環境をどのように工夫すれば子供たちが喜んでかかわり、自分らしさを発揮しながらお互いの違いを認め、社会生活における望ましい態度を養うことができるかを、一人一人のかかわる姿を見守りながら、交流や体験を通して研究していきたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究の目標

異文化とふれあい、異文化に親しむための環境を工夫し、人とかかわる力を育てるための手だてを探る。

Ⅲ 研究の仮説

1 基本仮説

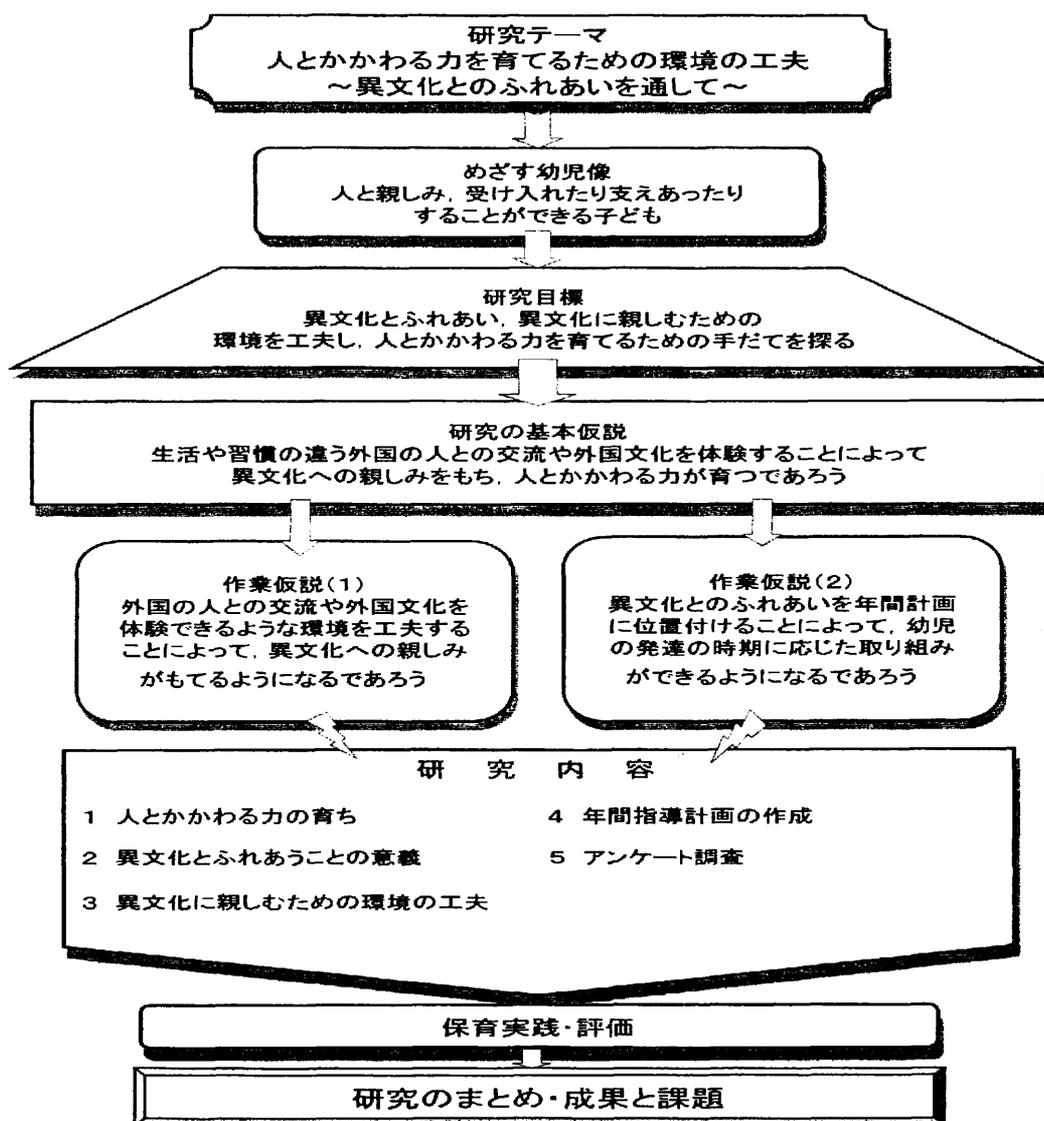
生活や習慣の違う外国人との交流や、外国文化を体験することによって、異文化への親しみをもち、人とかかわる力が育つであろう。

2 作業仮説

(1) 外国人との交流や外国文化を体験できるような環境を工夫することによって、異文化への親しみがもてるようになるであろう。

(2) 異文化とのふれあいを年間指導計画に位置付けることによって、幼児の発達の時期に応じた取り組みができるようになるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

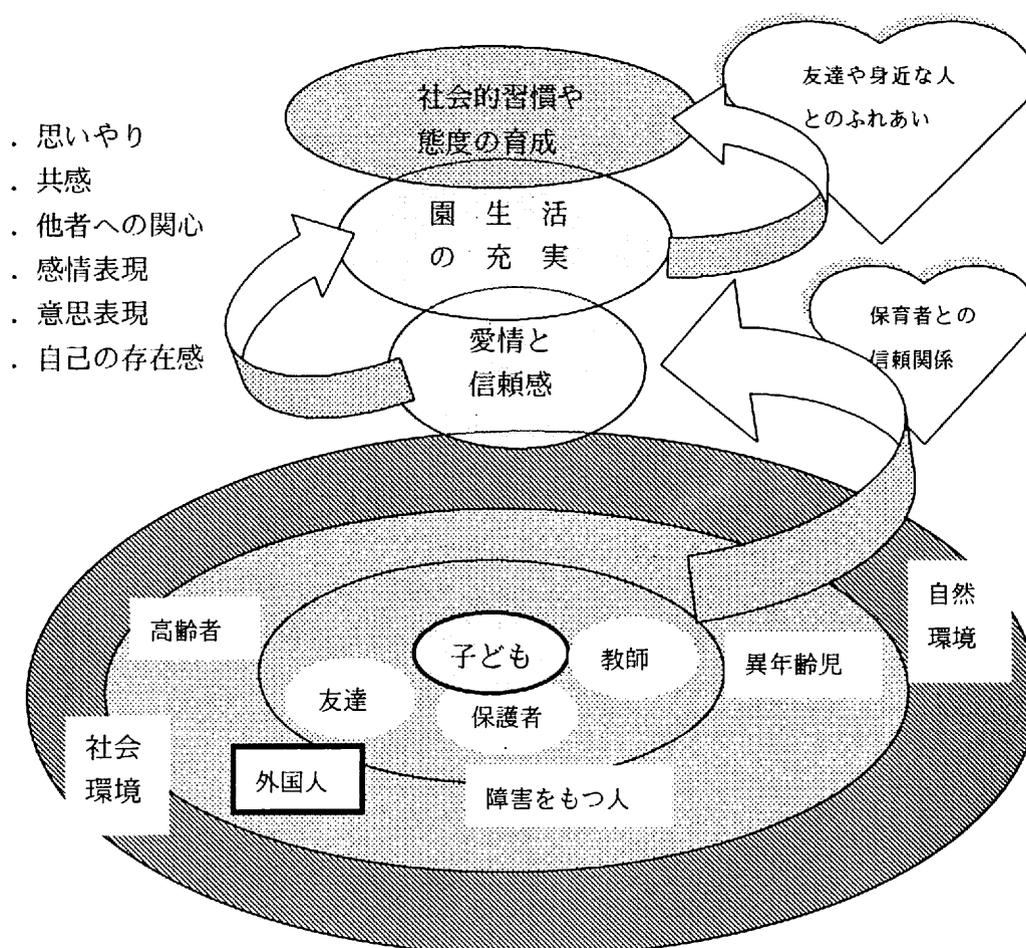
1 人とかかわる力の育ち

「人とかかわる力の基礎は、自分が親や周囲の人々に温かく見守られているという安定感から生まれる人に対する信頼感を持つこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立することによって培われる。幼稚園生活においては、何よりも教師との信頼関係を築くことが必要であり、それを基盤としながら様々なことを自分の力でやる充実感を味わうようにすることが大切である。また幼児は、幼稚園において多くの他の幼児や教

師とふれあう中で、自己の存在感や自分とは違った様々な人への積極的な関心、共感や思いやりなどをもつようになる。また、こうした生活の中で自分の感情や意思を表現しつつ、ほかの人々と共に生活する楽しさや大切さを知り、そうした生活のために必要な習慣や態度を身に付けていくことになる。」

この考えを幼稚園の生活の中で具体化していくと、次のようになるであろう。

(人とかかわる力が育つ過程の構造図)



2 異文化とふれあうことの意義

国際化が進む近年の日本社会において、世界中の出来事が身近な問題として報道され幼児の周りに溢れている。情報ばかりでなく、物の交流も文化的な交流も活発になり、海外との行き来が日常的になってきている現在、外国での生活経験がある保護者や幼児の入園など、人的環境も多様になってきている。そのような社会の中で幼稚園が果たす役割を考えたとき、様々な考え方や文化をもった人々が身近に生活し、支え合って生きていくためには互いに相手を理解し、尊重していくことが大切であり、自分とは異なる考え方や生

き方に対しておおらかに受け止めることが大切になる。また、互いに理解しあうためには、自分の考えを相手にはっきり伝えていくことも大切で、主体的な生活態度や豊かな表現力の育成が求められる。幼稚園における異文化とのふれあいは、豊かな人間関係を育む意味においても、意義深いものがあると考えられる。また、印象深い体験として幼児が互いに共有しあうことで、幼児相互のかかわりが膨らみ、生活や遊びが豊かに展開するようになる。すなわち、次のような幼児の心情、意欲、態度の育ちが期待される。

- ①豊かな感情体験
（心情）
 - ・ 外国の人と交流し、親しみをもつ
（お互いの国の言葉であいさつをしたり、歌ったり、踊ったりしながら交流を深める）
 - ・ 髪や、目、肌の色など外見の違いに気付く
 - ・ 言葉や生活習慣などの違いに気付く

- ②豊かな社会性
（意欲）
 - ・ 生活習慣や言葉など、文化の違いに興味、関心をもつ
 - ・ 外国の言葉や遊びを楽しむ
 - ・ 体験を通して異文化への関心や理解を深める

- ③豊かな自己表現
（態度）
 - ・ 場に応じた行動ができる（思考力）
 - ・ 自分の考えを表現し行動する（表現、行動力）
 - ・ 自分の思いを伝えたり相手の考えを受け止める（コミュニケーション能力）

3 異文化とふれあうための環境の工夫

(1) 人的環境の工夫

異文化とのふれあいを通して人とかわる力を育てるという視点で実践していくためには、何よりも人的環境(人材の活用)が重要である。当園では、これまで外国人を父母に持つ園児や長期間外国で暮らした経験のある父母との交流、外国からの体験入園など、様々な異文化とのふれあいを生活や遊びの中で幼児に体験させることができた。このような体験を継続して行うためには、人材の確保や新たな人材の発掘が必要になってくる。今回は、外国とかわりのある卒園児の父母に依頼し、協力を得ることができた。また、新たな人材として浦添市国際交流課の国際交流員(米国人)を派遣してもらい交流の機会を得た。もう一つの地域人材として、沖縄国際センターの研修員との交流がある。その他、外国からの留学生が来園し、楽しい交流のひと時を

過ごすことができた。次に、幼児と共に環境を構成していく教師の問題がある。教師自身が、異文化に対して心を開き、人種や民族の違いにかかわらず、すべての人を独自の、いのちと個性を持った存在として等しく接し、尊重することができるかどうか問われる。異なった文化をもつ人々に対する教師の意識も重要な環境の一つである。

(2) 教材や場の工夫

幼児期に異文化とふれあうことの意義を実現させるためには、人的環境だけでなく、幼児に興味や関心をもたせるような教材や場の工夫が必要になってくる。直接体験によって得た情報を概念として形成していくという幼児期の発達の特徴を踏まえて教材や場の工夫を異文化とのふれあいに生かすすれば、次のような活動が考えられる。

① 異文化に気付く活動(視覚に訴えるもの)

掲示物教材	写真、ポスター、新聞の切り抜き、世界地図、絵地図、国旗、その他行事の際に使用するもの
展示物教材	季節感が味わえるもの(貝や松ぼっくりなどの自然物) 遊びに使うもの(楽器、お面など)
視聴覚教材	テレビ、ビデオ、OHP、スライド、音楽放送
その他の教材	切手、手紙、絵本、地球儀など

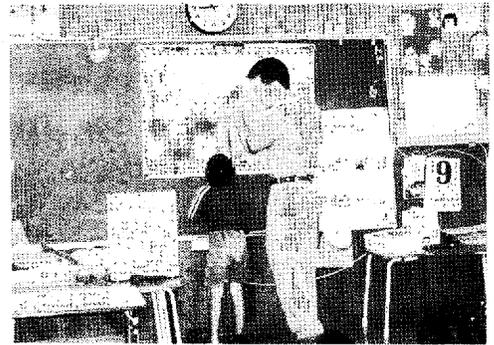
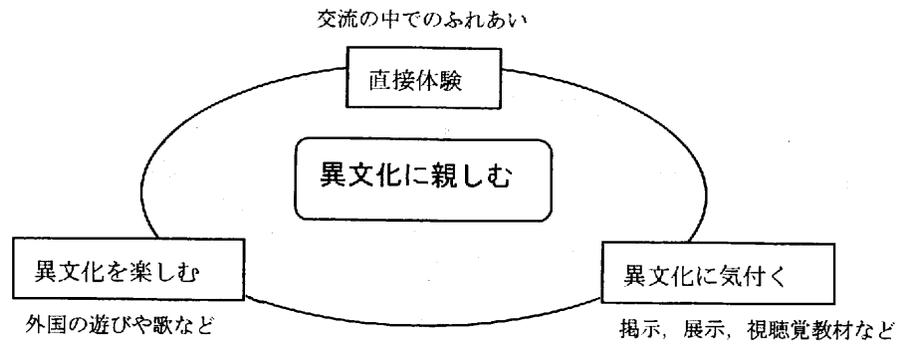
② 異文化を楽しむ活動(子どもらしい活動性のあるもの)

外国のあそび	歌、ダンス、ゲーム、手遊び、言葉遊びなど
--------	----------------------

③ 直接体験(子どもの生活に密着しているもの)

外国人との交流	お互いの紹介、互いの国の生活や行事紹介など
---------	-----------------------

{異文化に親しむための活動のイメージ図}



4 「異文化とふれあう」年間指導計画

期	I 期	II 期	III 期
月	4月 5月 6月 7月	9月 10月 11月 12月	1月 2月 3月
発達過程	<ul style="list-style-type: none"> 教師とのかかわりや気の合った友だちとのかかわりを通して安定し、自分らしさを出してくる時期 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな友だちにかかわり、受け入れたり、協力しあったりしながらグループやクラスのまとまりが出てくる時期 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力を試したり、疑問に思ったことへの探究心や知的な欲求が高まる時期
ねらい	★ 外国の人と一緒に遊び、親しみをもつ	★ 外国の言葉や遊びを楽しみ、興味・関心を持つ	★ 異文化への関心を深める
内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国の人との出会いを喜ぶ 外国の人と一緒に遊び楽しさを味わう 外国語の簡単な挨拶や言葉を楽しむ 外国の歌を楽しむ 外国の話に興味、関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな国や言葉があることに気付く 外国の言葉や遊びを体験し、おもしろさを味わう 一緒に遊ぶ中で自分の考えを表現する 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化とふれあう楽しさを味わう
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 外国の人と友達になろう 英語で遊ぼう(挨拶やうた) 	<ul style="list-style-type: none"> (国際センター) (ハロウィーン、英語劇) 	<ul style="list-style-type: none"> (外国人幼児) お正月遊びをしよう
環境	<ul style="list-style-type: none"> 温かい雰囲気作りをする。(歓迎の言葉を表示し、みんなで迎える) 世界地図や地球儀、国旗などを見せながら、外国と日本の違い、地理的な位置や気候について知らせていくようにする。 写真やスライドを使って外国の様子を知らせる。 外国の絵本を絵本コーナーに置いておく。 ビデオを使って外国の歌や遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国の遊びの準備をし、雰囲気作りをする。(お面作り、壁面構成など) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のお正月遊びや節分、ひな祭りなどの準備をし、外国の人にも日本文化を体験できるよう環境を整える。(こま回し、羽根つき、カルタとりなど)
構成	<ul style="list-style-type: none"> 「パート・ステナード・リチャード」(地域人材として) 外国人父母 ジュリアン・恵子(地域人材として) 外国長期滞在経験者 ジュリアン・K・ブライント(国際交流員) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際センター研修員 アメリカンスクール外国人幼児 その他留学生など 	
教材	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図、写真、ビデオ、CD、絵地図、絵本、図鑑 	<ul style="list-style-type: none"> お面、変装用具、ポスター、お菓子など 製作教材(空き箱、セロテープ、画用紙、マジックペン、色紙など) 	<ul style="list-style-type: none"> お正月遊び教材(こま、カルタ、すごろく、羽子板、羽根、凧など) 豆まき、ひな祭り教材(鬼の面、雛人形など)
援助	<ul style="list-style-type: none"> 教師も子どもと共に親しみを持って外国の人に接していくようにする。 普段の生活の中で、外国語の簡単な挨拶をしたり歌を歌ったりする機会を持つようにする。 子どもの疑問や質問を大事にし、一人一人の感じ方を尊重する。 外国の人に対する幼児の姿を見守りながら、挨拶や言葉遣いなどの大切さを知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 劇や遊びに外国語を取り入れるときは、簡単な言葉や繰り返しの言葉で表現できるようにし、無理のない構成をする。 子どもたちの取り組み姿を見守り、自信が持てるよう励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本独自の遊びや文化があることに気付かせていくようにする。 研修生と積極的にかかわれるよう促す。 アメリカンスクールの子もたちとのかかわり方を見ながら声かけをしたり、共に遊んだりする。

5 アンケート調査

ねらい：1～2学期までの外国人との交流やその他の異文化体験について、家庭での子どもの様子や保護者の意見を記入してもらい、今後の研究、実践に役立てる。

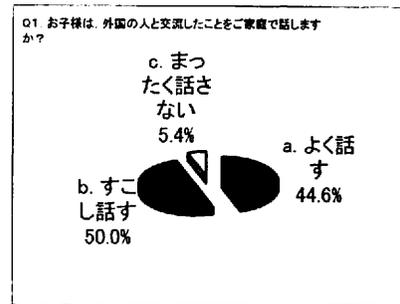
対象者：沢岷幼稚園児の保護者 実施期間：平成12年12月21日～同月25日
(アンケート実施結果)

《回収率》

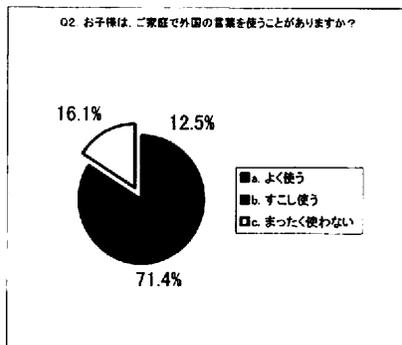
対象者数：	沢岷幼稚園児保護者	96人
回答者数：		56人
回収率：		58.3%

Q1. お子様は、外国の人と交流したことをご家庭で話しますか？

「外国の人と交流したことをご家庭で話しますか」という設問に対し、「少し話す」が28人で全体の50.0％、次いで「よく話す」が25人で同44.6％となっており、「まったく話さない」はわずかに5.4％であった。この結果を見ると、ほとんどの園児が外国の人と交流したことを家庭で話しており、子どもにとって印象深い出来事であったと思われる。



Q2. お子様は、ご家庭で外国の言葉を使うことがありますか？

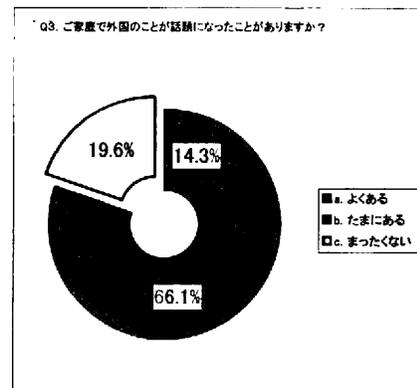


「家庭で外国の言葉を使うことがありますか」という設問に対し、「少し使う」が40人で71.4％と圧倒的に多く、次いで「まったく使わない」の9人(16.1％)、「よく使う」の7人(12.5％)の順となっている。この結果から8割強の子どもが、外国語を日常生活に取り入れていることがわかる。子どもたちが家庭でよく口にする言葉は、英語による挨拶や返事、動物、食べ物、色、数字など、なじみのある簡単な言葉が多い。また、幼稚園で経験した、ハロウィンや英語劇で使った言葉や歌などのほかに、ラオス語の

挨拶を覚えて使っている子もいる。これらの言葉は、幼稚園での経験以外に、英会話教室や、テレビなどマスコミの影響も大きいだろう。

Q3. ご家庭で外国のことが話題になったことがありますか？

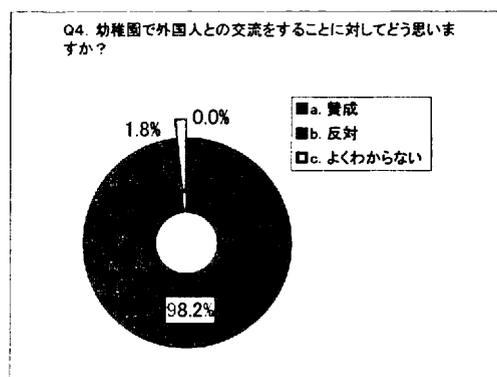
「外国のことが話題になったことがありますか」という設問に対して、回答は「たまにある」が37人(66.1％)、「まったくない」が11人(19.6％)、「よくある」が8人(14.3％)の順となっており、多少なりとも家庭で外国のことが話題になったことがあると答えた人は約8割に上る。外国についての話題をみると、幼稚園での体験のほかに、外国人の親戚や友人のこと、また基地内への訪問など身近な体験をもとに話し合ったりしてい



ることが伺える。また、テレビや雑誌、新聞などの間接情報をうまく活用している保護者も多く、その内容も外国の自然や生活、言葉の違いについてだけでなく、戦争や貧困、人種についても話し合われており、内容の深さや豊かさを感じる。その他、外国旅行など「海外にいったみたいね」と話し合っている親子もいる。

Q4. 幼稚園で外国人との交流をすることに対してどう思いますか？

「外国人との交流をすることに対してどう思いますか」という設問に対して、「賛成」とする意見が55人(98.2%)と圧倒的に多く、「反対」の意見は皆無であった。賛成意見の中から幾つかの意見を列挙してみると、「外国の文化や言葉の違いを理解しながら交流してほしい」、「色々な外国や人種があることを小さいときから知っていてほしい」、「言葉の違う人との交流は将来にも良い影響があるものと思う」、「外国の子どもとの交流も必要と思う」など39件もの意見が寄せられた。



(集計表)

Q1. お子様は、外国の人と交流したことをご家庭で話しますか？

区分	a. よく話す	b. すこし話す	c. まったく話さない	合計
件数	25	28	3	56
構成比	44.6%	50.0%	5.4%	100.0%

Q2. お子様は、ご家庭で外国の言葉を使うことがありますか？

区分	a. よく使う	b. すこし使う	c. まったく使わない	合計
件数	7	40	9	56
構成比	12.5%	71.4%	16.1%	100.0%

Q3. ご家庭で外国のことが話題になったことがありますか？

区分	a. よくある	b. たまにある	c. まったくない	合計
件数	8	37	11	56
構成比	14.3%	66.1%	19.6%	100.0%

Q4. 幼稚園で外国人との交流をすることに対してどう思いますか？

区分	a. 賛成	b. 反対	c. よくわからない	合計
件数	55	0	1	56
構成比	98.2%	0.0%	1.8%	100.0%

VI 保育実践

1 「異文化とふれあう」活動の展開

月	活動内容	ねらい	活動の様子
6月	外国の人と友達になろう ・サイさん、ワサーナさんの紹介 ・ラオスの紹介（生活の様子を聞く） ・園庭で一緒に遊ぶ	・ラオスの人との出会いを楽しむ	サイさん、ワサーナさんを玄関で迎え「あれ、日本人じゃない？」と子どもたち。しかし「おはようございます」と二人が言うと「あ、やっぱり違う。」地図でラオスと沖縄の位置を示したところ「近いね」「沖縄とラオスの家は似ているの」という質問にサイさんが黒板に絵を描き説明する。
7月	英語で遊ぼう ・ロバート先生の紹介 ・アメリカの紹介 ・英語で挨拶 ・歌（ABCの歌、ハッド&ソルジャー）	・ロバート先生との出会いを楽しむ ・英語の挨拶や歌に親しむ	子どもたちの「グッチョング」の挨拶に、ロバート先生「おーすごい」とほめる。日本語を話すロバート先生を見て「あい、日本語しゃべりよった」と驚いた様子。ロバート先生が「私のお母さん見る？」とサイの写真を見せると笑いが起こり親しみを感じている様子。
	スイカ割りしよう ・手話やエイサーをする ・スイカ割りをする	・日本の生活文化を一緒に楽しむ	子どもたちと一緒にスイカ割りに挑戦。サイさん、ワサーナさんに「がんばれ、がんばれ」と大声援。ラオスの歌「花（プルメリア）」を静かに聞いていた。
9月	スペイン語で遊ぼう ・スペイン語で挨拶 ・ボリビアの話聞き、歌や遊びを教えてもらう	・スペイン語の挨拶や歌、遊びを楽しむ	初めて聞くスペイン語に「えいごよりむつかしい」「カベッサ（頭）って壁みたいでおもしろい」「オレツハ（耳）はおれの歯みたい。」と喜んで覚える。「アラリポリッタ」というわらべ歌で遊ぶ。
10月	ハロウィンまつりをしよう ・ハロウィンの様子をビデオでみる ・まつりの準備をする	・ハロウィンまつりをし、外国の生活文化を楽しむ	実践例（1）参照
11月	ジュリアンと遊ぼう ・一緒に園庭で遊ぶ ・仕事や家族の話聞く ・シカゴの街の様子をライブで見る ・お好み焼きを一緒に食べる	・ジュリアンさんと楽しく遊び親しみをもつ	国際交流員のジュリアンさんが日本語での自己紹介をすると、「日本語上手だね」と感心した様子。「おかあさんのなまえは？」「たんじょうびは？」「すきなたべものは？」と次々質問。シカゴの街の様子がスクリーンに映し出されると「オー」と歓声があがる。
12月	英語劇をしよう ・「大きなかぶ」の劇を全員で役割を決め、発表会で演じる	・親しみのある絵本のお話を簡単な英語劇で表現する	実践例（2）参照
1月	お正月遊びをしよう ・日本のお正月遊びを外国の人に紹介し、一緒に遊ぶ	・日本と外国の遊びを体験し、その違いや面白さに気付く	検証保育案参照
2月	国際センターの人と遊ぼう ・研修員と一緒に遊んだり、いろいろな国の話を聞く	・いろいろな国の人と交流し、外国のことに興味や関心を持つ	ブラジル、パラグアイ、チリ、コロンビアからの訪問に「5つの島からきたの？」「お正月はどんなことするの？」と質問。お正月遊びや豆まきを一緒に楽しんだ。
	アメリカスクールの人と友達になろう ・外国の子どもたちと一緒に好きな遊びに取り組む ・お互いに教えあったりしながら遊ぶ	・外国の子どもたちと一緒に遊び親しみを持つ ・相手を思いやりながら自分の思いを出す	計画、検討の段階

2 実践例

(1) ハロウィンまつりをしよう

ねらい : ハロウィンまつりをし、外国の遊びを楽しむ

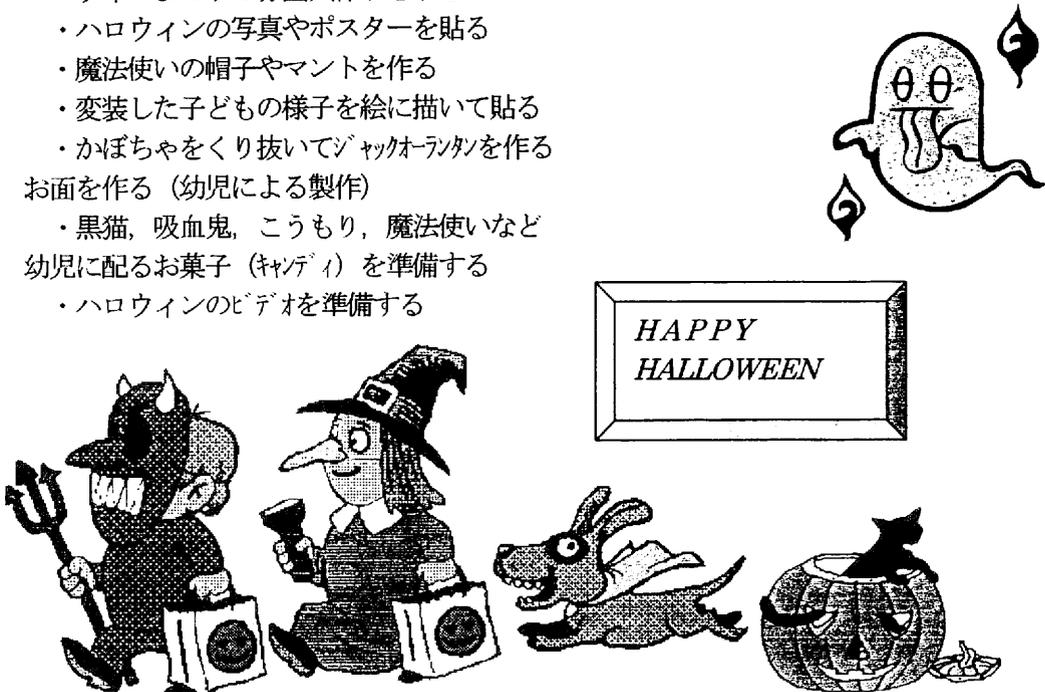
日時 : 平成12年 10月31日 (8時30分~9時15分)

導入 : 全園児に浦添の「てだこまつり」やエイサー、綱引きなど、身近な祭りの体験をイメージさせながら、外国の「ハロウィンまつり」について話す。

・祭りをするためには、変装しなければならないこと。

・「トゥリック オア トゥリートゥ」という合言葉を言うこと

・合言葉を練習し、変装用のお面や壁面構成など、環境を工夫する。

期日	環境の工夫
10/26	<p>ハロウィンまつりの雰囲気作りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンの写真やポスターを貼る ・魔法使いの帽子やマントを作る ・変装した子どもの様子を絵に描いて貼る ・かぼちゃをくり抜いてジャックオーランタンを作る <p>お面を作る (幼児による製作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒猫, 吸血鬼, こうもり, 魔法使いなど <p>幼児に配るお菓子 (キャンディ) を準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンのビデオを準備する
10/30	 <p>A collection of Halloween-themed illustrations: a ghost with a tongue sticking out, a witch with a broom and a pointed hat, a devil with horns and a pitchfork, a rabbit, and a jack-o'-lantern with a cat sitting on top. A sign in the background says 'HAPPY HALLOWEEN'.</p>



<活動の流れ>

時間	ロバート先生の様子	子どもの様子
8:30	<p>ロバート先生来園「ハーワーユー」 「アイムファイン」 「きょうは何の日ですか?」 「ハロウインの特別な挨拶ある, ハッピーハロウイン」 「ベリゲッ, ハロウインのときはカボチャ作ったりお面をいっぱい作ったりするよ」 「お父さんやお母さんと一緒にかぼちゃ買う」 「タネは置いておく, 食べられる」</p> <p>「英語でかぼちゃ分かるかな?」 「そう, そして一番大切なのは…」</p> <p>ロバート先生笑う「パンプキンの中にろうそくいれて窓に置いておくと目が光るよ, ウー」 「大昔, 男の人が女の人の家に行こうとしたら頭なくなった。かわりにかぼちゃかぶった。」 「ハス, ゴースト, 英語ではジャックオランタン, 魔女はウィッチ, こうもりは…」 「バット, 猫はブラックキャット」絵をさしながら言う 「子どもはみんなお面つけたりゴーストやブラックキャットになってお菓子もらう, もらうときはトリック オア トリックって言う, お菓子くれないといたずらするよって, みんなも練習してみようトリック オア トリックはい」 「ビデオで見てみようね」 「どうだった」「みんな一緒にトリック オア トリック」 「一人ずつやろうね」とキャンディを取り出して始める 「ギー」ドアを開けるまねをする 「どうぞ」とキャンディを一人ずつあげる 「楽しかったですか?ではグッバーイ」</p>	<p>「ハーワーユー」 「アイムファイン」 「ハロウイン」 「ハッピーハロウイン」</p> <p>「もうお面作ったよ」 「分かるよ, 包丁で目とかあけて」 「カボチャの種たべられるの?」 「たべたことある」 「パンプキンで言うの?」 「命でしょ」</p> <p>笑っている</p> <p>「どうしてなくなったの? ゆうれいなの?」 「バットマン」 「ブラックキャット」</p> <p>「トリック オア トリック」 ハロウインの様子をビデオで見る 「トリック オア トリック」 準備していたお面をつける トントンノックして「トリック オア トリック」 「サンキュー」 「さようならグッバーイ」</p>
9:15		

<結果・考察>

- ・ ハロウインまつりへの期待が持てるように環境を工夫し, 雰囲気作りをしたことによって, 幼児も喜んでお面を作り, まつりを楽しむことができた。
- ・ ハロウインの様子をビデオで見ることによって, 実際のまつりの様子を知ることができた。
- ・ 一人ずつロバート先生に合言葉を言う場面では, ほめられたり励まされたりしながら「トリック オア トリック」と言い, キャンディをもらうことができた。このような経験が幼児の自信につながり, ロバート先生に対する親しみも深まっていくのではないだろうか。
- ・ ハロウインまつりの翌日から, 魔女の帽子をかぶり, マントや魔法の杖を新聞紙で作って変装し, ハロウインごっこを楽しむ幼児の姿が見られた。

(2) 英語劇をしよう

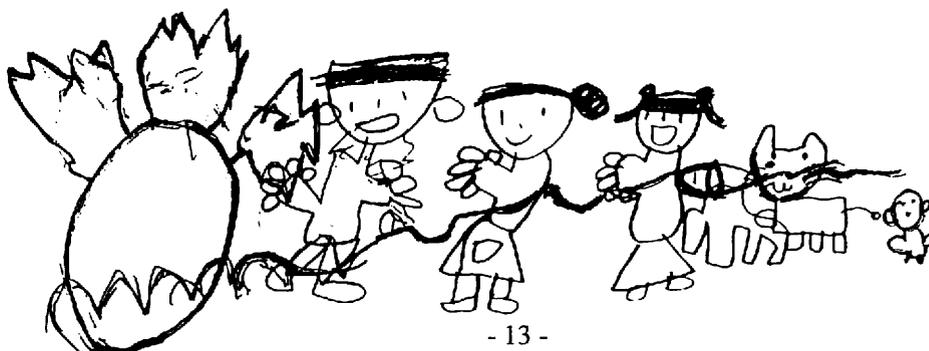
ねらい：「おおきなかぶ」を，簡単な英語劇で表現する

期 日：平成 12 年 12 月 16 日(土)

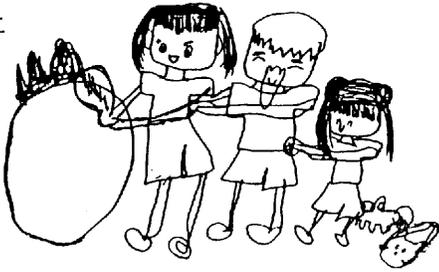
場 所：沢岬小学校体育館

動機づけ：生活発表会についての話し合いの中で，園児全員で取り組む種目として，これまで英語に親しんできた経験を生かし，幼児の好きな「おおきなかぶ」の英語劇をすることが決まった。

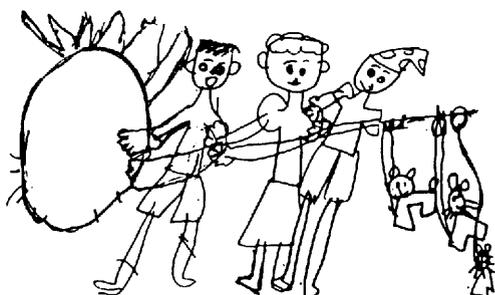
期日	活 動 の 経 過												
11/17	<p>ロバート先生に「おおきなかぶ」の絵本の英語翻訳を依頼する。</p> <p>シナリオ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳をもとに，子どもにわかりやすい英語のせりふを考えたり，子どもらしい表現ができるようにする。 ・ナレーターは教師が行う。 <p>園児との話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会の種目について話し合い，全員による英語劇について提案する。 (ロバート先生が関わることや，簡単な英語をみんなで言うことなど) ・「おおきなかぶ」の絵本のよみきかせをし，登場する人物や動物，話の大筋をつかむようにする。 <p>シナリオ完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロバート先生に検討してもらい，アドバイスを受け，シナリオ完成 <p>活動への展開</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・配役を決める。</td> <td>おじいさん (Old man)</td> </tr> <tr> <td>・せりふを練習する。</td> <td>おばあさん (Wife)</td> </tr> <tr> <td>・お面や小道具を作る。</td> <td>まご (kids)</td> </tr> <tr> <td>・身体表現を工夫する。</td> <td>いぬ (potch)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ねこ (tama)</td> </tr> <tr> <td>劇の仕上がりへ (リハーサル)</td> <td>ねずみ (mickey)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ロバート先生にリハーサルの様子を見てもらう。 (ロバート先生が見守る中，いつもより張り切っている) <p>*ロバート先生の感想</p> <p>「みんな上手だね，英語もとっても上手，もっとゆっくりおおきな声で口に手を当てて，〇〇ちゃん，カミンって言おうね。体も大きく動かしてね」</p>	・配役を決める。	おじいさん (Old man)	・せりふを練習する。	おばあさん (Wife)	・お面や小道具を作る。	まご (kids)	・身体表現を工夫する。	いぬ (potch)		ねこ (tama)	劇の仕上がりへ (リハーサル)	ねずみ (mickey)
・配役を決める。	おじいさん (Old man)												
・せりふを練習する。	おばあさん (Wife)												
・お面や小道具を作る。	まご (kids)												
・身体表現を工夫する。	いぬ (potch)												
	ねこ (tama)												
劇の仕上がりへ (リハーサル)	ねずみ (mickey)												
12/15	お面や衣装を身につけ，張り切って練習する。												



<活動の流れ>

教師の言葉・(動き)	幼児の言葉・(動き)
<p>英語劇スタート</p> <p>The old man planted the radish. おじいさんがかぶを植えました</p> <p>Every day he watered it. おじいさんは毎日かぶに水をやりました</p> <p>The old man tried to pull out the radish. おじいさんはかぶを抜こうとしました</p> <p>But he could not do it.しかし、かぶは抜けません</p> <p>So he called his wife.おじいさんはおばあさん呼びました</p>  <p>Still they couldn't do it.それでもかぶは抜けません</p> <p>So she called their grandchild.おばあさんはまご呼びました</p> <p>But still it didn't move.まだまだかぶは抜けません</p> <p>So the grandchild called the dog.まごは犬を呼びました</p>  <p>But still it didn't move.まだまだかぶはぬけません</p> <p>So the dog called the cat.犬はねこ呼びました</p>	<p>配役：◎おじいさん，㊦おばあさん，㊧まご， ㊨いぬ，㊩ねこ，㊪ねずみ</p> <p>全：Giant Radish おおきなかぶ</p> <p>◎：Grow big. grow big おおきくなあれ (音楽に合わせて降りていく)</p> <p>◎：Grow big. grow big おおきくなあれ</p> <p>◎：one.two.three. heave ho-heave ho</p> <p>◎：Come here dear</p> <p>㊦：Ok.coming! (音楽に合わせて登場)</p> <p>◎㊦：おばあさんがおじいさんをひっぱって、おじいさんがかぶをひっぱって、one.two.three. heave ho-heave ho</p> <p>㊧：Kids come here.</p> <p>㊧：Ok.coming! (音楽に合わせて登場)</p> <p>全：まごがおばあさんをひっぱっておばあさんがおじいさんをひっぱって、おじいさんがかぶをひっぱって、one.two.three. heave ho-heave ho</p> <p>㊨：Potch ! come here</p> <p>㊨：Ok. coming! (音楽に合わせて登場)</p> <p>全：いぬがまごをひっぱって、まごがおばあさんをひっぱって、おばあさんがおじいさんをひっぱって、おじいさんがかぶをひっぱって、one.two.three. heave ho-heave ho</p> <p>㊩：Tama ! come here</p> <p>㊩：Ok. coming! (音楽に合わせて登場)</p> <p>全：ねこがいぬをひっぱって、いぬがまごをひっぱって、まごがおばあさんをひっぱって、おばあさんがおじいさんをひっぱって、おじいさんがかぶをひっぱ</p>

But still it didn't move. まだまだかぶはぬけません
 So the cat called the mouse. ねこはねずみを呼びま
 した



(ピアノで効果音)
 At last they did it. やつとかぶは抜けました

って, one.two.three. heave ho-heave ho

① : Mickey ! come here

② : Ok. coming! (音楽に合わせて登場)

全 : ねずみがねこをひっぱって, ねこがいぬをひっ
 ぱって, いぬがまごをひっぱって, まごがおばあさん
 をひっぱって, おばあさんがおじいさんをひっぱっ
 て, おじいさんがかぶをひっぱって,
 one.two.three. heave ho-heave ho

heave ho-heave ho (だんだん大きな声で)

全 : Yeah! Yeah! Yeah!

<結果・考察>

・「おおきなかぶ」の英語劇を, 教師と幼児が一緒に取り組み, 楽しさを味わうことができた。また, 英語の面白さを園生活の中に取り入れる姿が見られた。

例 : 「ヒーローヒーロー, どっこいしょ」(つくえをはこびながら)

「グロービッググロービッグ, おおきくなあれ」(花に水をやりながら)

「○○さーん, カムヒヤー」「オーケー, カーミン」(友達を呼び, こたえながら)

・ロバート先生に, 英語のせりふをほめられ, 励まされたりしながら劇をがんばったことが, 幼児の自信と意欲につながったと思われる。



3 検証保育

(1) 検証保育指導案

日 時 : 平成 13 年 1 月 16 日 (火) 9 時 30 分 ~ 10 時 30 分

対 象 : 沢岷幼稚園園児 101 名 (5~6 歳児, 男児 56 名 女児 45 名)

ね ら い : お正月遊びを通して外国の人との交流を深める

主な活動 : 日本のお正月遊びを外国の人に紹介し, 一緒に遊ぶ

活動の経過 : これまで, 外国の生活習慣や言葉, 遊びなどを中心に外国の人との交流や体験をしてきたが, 本時では, 日本のお正月遊びを外国の人に伝えたり一緒に遊んだりしながら交流を図る。

<1日の生活の流れ>

時間	予想される幼児の活動	内 容	保育者の援助
8:15	登園する ・先生や友達と挨拶をする ・所持品の始末をする ・草花に水をやる ・当番は小動物の世話をする ・好きな遊びをするマツ、折り紙 各学級へ集まる ・お正月遊びの準備をする	・すすんで挨拶をする ・朝の便りにシールを貼る ・ジャンパーなど厚手の上着を脱ぎハンガーに掛ける ・折り紙でメダルを作る ・欠席の友達がいたら先生に知らせる ・今日の活動について先生から話を聞く	・出欠の確認や子どもの健康状態を把握する ・今日1日の活動の見通しやめあてを持たせるようにする ・手作りの名札を準備する
9:30	全体で集まる(ほし組) ・朝の挨拶をする ・歌遊びをする(ハット、ショルガー、ニース&トーズ) ・お正月遊びの話聞く ・歌を歌う(がんばりマン) ・お正月遊びをする <室内> カルタとりやトランプ すごろく まりつき けんだま <戸外> はねつき こま回し <舞台> こま回し	・元気よく歌を歌う ・外国のお正月について質問したり話を聞いたりする ・3人の先生と一緒に正月遊びをする ・読み手になってもらったり、何枚取れるか競争したりする ・すごろくやまりつきを一緒に楽しむ ・怪我をしないように気をつけて遊ぶ ・はねつきを一緒に楽しむ ・こまの紐の巻き方や回し方を教えてあげたり、競争したりする ・こまの台を準備する ・一緒に遊んだ先生にお礼を言う	・遊びのルールを一緒に考えながら楽しむようにする ・すすんで関われない子に声をかけ、遊びに誘うようにする ・決められた場所で遊ぶよう声をかけ、けがをしないよう配慮する ・放送で終わりの合図をする
10:30	遊びを終え片づけをする おやつ準備をする ・いすや机を星組に運ぶ ・自分の席に座る ・当番はおやつ準備をする おやつ ・みんなでおやつをいただく ごちそうさま	・くじ引きで決めた番号の席に座る ・当番はテーブルを拭き、牛乳やお菓子を配る ・当番の合図でおやつを始める ・ハート先生、ジュリアン先生、恵子先生と一緒におやつをいただく	・決められた場所で遊ぶよう声をかけ、けがをしないよう配慮する ・放送で終わりの合図をする ・ハート先生、ジュリアン先生、恵子先生の席をくじ引きで決める
11:20	・3人の先生方の話を聞く ・さよならのあいさつをする 片付けと清掃	・お正月遊びの感想を聞く ・感謝の言葉とさよならをする ・みんなで後片付けや清掃をして各教室へ戻る	

↑
(本時)
↓

(2) 検証保育の結果と考察

ねらいの設定について

本時の活動の展開から、これまで幼児に外国文化を経験させてくださった外国の方に、日本のお正月遊びを紹介し、一緒に遊ぶという体験を通して交流を深めるというねらいは、ほぼ達成されたと思われる。

活動の内容と援助について

<活動の様子>	<援助>
<p>かるたとり</p> <ul style="list-style-type: none">・ジュリアン先生は、はじめ読み手だったが、幼児に「ジュリアン先生もとって」と頼まれ、交代で楽しむ。・ジュリアン先生の膝にもたれたり、体に触れたりしながら楽しむ。	<ul style="list-style-type: none">・幼児に、ジュリアン先生に遊び方を伝えるよう声をかける。
<p>こま回し</p> <ul style="list-style-type: none">・ロバート先生のこまがなかなか回らないので、「紐の巻き方が違うんじゃない？」と心配そうに見守る。・「みててよ」と紐をゆっくり巻いてみせる。・ロバート先生「上手だね」と声を掛けられ、喜ぶ。	<ul style="list-style-type: none">・ロバート先生や子どもたちと一緒にこま回しをしたり、回し方を教える。・こまの台を使い、安全面に配慮する。
<p>はねつきやまりつきなど</p> <ul style="list-style-type: none">・恵子先生は、はねつきやまりつきの他にも、色々なお正月遊びを幼児と一緒に楽しんでいる。・幼児は、自分の得意な遊びを恵子先生に教えたり、恵子先生の髪や服、手や肩に触れ、話しかけている。	<ul style="list-style-type: none">・進んで関われない幼児に声をかけ、遊びに誘う。

環境の工夫について

お正月遊びの雰囲気作りとしての、環境構成の他に、お互いの名札を準備し、交流の中で親しくなれるようにした。



Ⅶ 研究のまとめ

1 研究の成果

作業仮説(1)について

・人的環境として、園内外の協力体制が、これまでの実践を支えてきた。特に、地域に住む外国人の存在は、交流活動を進める上で重要であり、外国滞在経験者の協力も貴重である。また、教師間の協力も不可欠である。

・教材の工夫として、幼児が実際に手に触れる異文化教材が少なく、不十分なところもあったが、市立図書館から借用した外国の絵本には、多くの幼児が関心を寄せていた。また、壁面構成の掲示や展示を中心に、スライドやビデオなど、視聴覚教材も活用することができた。

・場の工夫として、外国人との交流だけでなく、外国の遊びや言葉などの異文化体験、さらに、日本文化と一緒に体験し、外国の人に伝えたりしながら交流を深めることができた。

作業仮説(2)について

・異文化とふれあう活動を、幼児の発達の過程に沿って、幼児に育ててほしい教師の願いをねらいとし、また、体験の中で育つ幼児の心情や意欲、態度を内容として捉え、年間指導計画に位置付け、活動を展開することができた。

以上のことから、異文化とのふれあいを通して「人とかかわる力」を育てるためには、幼児が、外国の人との交流や外国の遊びなどを楽しいとすることが大切で、その楽しさが味わえるような環境を工夫し、ふれあいの中で相手を受け入れたり、自分らしさを出しながら進んでかかわり、しだいに社会的態度が育っていく過程が人とかかわる力を育てることになるということを確認した。

2 研究の課題

- ・幼児のための異文化教材の工夫。
- ・異文化とのふれあいを、幼児一人一人がど

のように受けとめ、どのように感じ、どのようにかかわっていたかを把握するための教師間のチームティーチングのあり方について考えていきたい。

おわりに

異文化とのふれあいを、人とかかわる力の育ちの面から理論・実践研究をしてきました。

幼児は、外国人との交流や外国文化を体験する中で、自分との違いに気付き、興味を持ってかかわり、挨拶や簡単な外国語を覚えて使うようになりました。また、相手の話を良く聞き、自分の思いを出しながらかかわることができるようになってきました。今後は、作成した年間指導計画を練り上げ、豊かな人間関係の育ちの場として、異文化とのふれあいを継続していきたいと思います。

研究期間中ご指導くださいました、浦添市教育委員会の比嘉美也子指導主事、当研究所の新城所長、新川係長、与古田主事、職員の皆様へ深く感謝申し上げます。また、研究所に激励の言葉で送り出し、温かく見守りながら研究を支えてくださった沢岨幼稚園仲本園長はじめ、職員の方々と101人の園児たち、そして、本研究にはなくてはならない存在の、ロバート先生、ジュリアナ・恵子さん他、外国の方々のご協力に心から感謝します。Thank you very much!

<資料>

英語のあそびうた

あたまと かたと ひざと つまさき

Head, Shoulders, Knees and Toes

Head, Shoulders, Knees and Toes,
Knees and Toes,

Head, Shoulders, Knees and Toes,
Knees and Toes,

And eyes and ears and mouth

And nose

Head, Shoulders, Knees and Toes,

Knees and Toes, Repeat (6 times)

<引用・参考文献>

- | | | |
|--|------------------------|---------|
| ・幼稚園教育要領解説 | 文部省 | フレーベル館 |
| ・幼稚園教育要領解説 | 森上史郎, 高杉自子, 柴崎正行/編 | フレーベル館 |
| ・新幼稚園教育要領の解説 | 小川博久/森上史郎/小田豊/神長美津子・編著 | ぎょうせい |
| ・保育用語辞典 | 森上史郎, 柏女靈峰・著 | ミネルヴァ書房 |
| ・保育, 幼児教育シリーズ人間関係 | 小川博久 | 川島書店 |
| ・保育内容「人間関係」を学ぶ | 西頭三雄児, 久世妙子, 小澤文雄・編著 | 福村出版 |
| ・演習保育講座7 保育内容・人間関係 | 高杉自子, 小田豊・編著 | 光生館 |
| ・国際理解教育の授業作り
—総合的な学習をめざして— | 佐藤郡衛/林美和 著 | 教育出版 |
| ・新しい国際理解教育を創造する
—子どもがひらく異文化コミュニケーション— | 水越敏行・田中博之 編著 | ミネルヴァ書房 |
| ・<平成11年改訂>保育所保育指針 | 厚生省 | フレーベル館 |